

【22_064/技術系メルマガ】『プルバックの深さ』と『損切り』の関係

〇〇さん

こんにちは、クロガキ(クロ)です。

普段から、自分の基準に基づく『決めごと』でトレードするのが『型』だ

という事をお伝えしていますが、今回のテーマもその一部を成す大事な要素としてまとめます。

□
■ 『プルバックの深さ』と『損切りの大きさ』の関係について

大抵、押し目買い・戻り売りを是とするトレードにおいては

「しっかりプルバックを待ちましょう」などと何度も言われる事ですが

そもそも、「何処まで待てば“しっかり”なのか？」が分からないから、皆困るんですよね(笑)

やはりここでも、エントリーを仕掛ける 事を考える上で『基準』を意識する事が重要で

僕の場合は、『リスク(損切幅)』を一番意識します。

要は、このエントリーをしようと思ったとき【自分がどれだけのリスクを負う事になるのか】

を いつも一貫した方法 で事前に認識しておくことが必要だという事です。

これに関しては関連するツイートを以前呟いたのですが、覚えている人いますかね？(笑)

▼ツイート:プルバックの深さと損切について▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1496646070931185670?s=20&t=vBXSXvdhrY-SFblwYM0MDA>

僕の場合、認識したセットアップの①波に対して全戻しの動きが入る場合はロスカットする

と決めているので、自分が①波を想定し始めた時点で、ロスカットの候補位置を決定します。

あとは、そこからどの程度プルバックが入ったら、腹を括ってエントリーするかを決めるのですが当然ながら、プルバックが“浅すぎる”場合、事前に決めた損切り位置から距離が遠すぎるのでリスクリワードが合わないと判断し、様子見となります。

なので、『いつもこの辺までプルバックが入るのが丁度いい水準』という塩梅が自分の中にあるわけです。

この『丁度いい塩梅』を探すのが、母数を集める検証の目的でもあります。

ちなみに、この③波の考え方はエリオット波動の3波認識と関連が深いという事が後で分かったのですが

僕自身は最初から理論を意識したというよりも

過去のチャートを100, 200, 300、、、と検証しているうちに

『大体この辺まで押し・戻しが入ると、その後に大きく動く傾向がある』という

【割と確率の高い動きの条件】を感覚的に理解し、後で理屈がついてきた、という感じです(笑)

そんなわけで、『プルバックを待つ』というトレードにおける一つの工程においても

『自分の中での決めごと』を定めるのは非常に重要で

その基準を決める為の作業というのが“母数を集める検証”ということなのです。

相場が不確実性を持っているものである以上、自分の視点で『こうなったら、こうする』という

『判断基準』を明確にし、その基準に沿う規則性が見えた時にだけエントリーする。

いつも自分が『同じサイコロ』を持って一貫したトレードをしているという自信をもって

行う事にこそ、無敗の秘訣があるという事を理解して貰えたら幸いです。